

< 宗教と科学 > という問題の射程とその意義

1. はじめに
2. 科学と宗教との関係史
3. 対話をめぐる問題状況
4. 課題

1. はじめに

1. 科学と宗教の関係性、錯綜した状況
 - 問題の限定(自然科学とキリスト教)
 - 様々な立場、様々なテーマ・観点・方法、
 - 議論の担い手(個人と集団)の点在、同時にネットワーク化の動向
2. 日本と世界

(1)日本

- ・「宗教と科学」研究会 (<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/christ/science/index.html>)
- G・コイン他編(柳瀬睦男監訳)『宇宙理解の統一をめざして』南窓社
- リンドバーグ/ナンバース編(渡辺正雄監訳)『神と自然』みすず書房
- Vincent Bummer (ed.), *Interpreting the Universe as Creation*,
Kok Pharos Publishing House 1991
- Paul Davies, *God and New Physics*, J.M.Dent & Sons 1983
- Langdon Gilkey, *Nature, Reality, and the Sacred. The Nexus of Science and Religion*, Fortress 1993
- Leo Elders, *The Philosophy of Nature of St. Thomas Aquinas. Nature, the Universe, Man*, Peter Lang 1997
- Dieter T. Hessel and Rosemary Radford Ruether(eds.),
Christianity and Ecology, Harvard University Press 2000
- 芦名他 『科学時代を生きる宗教 - 過去と現在、そして未来 - 』北樹出版
- ・プロテスタント関係者：
 - マクグラス・ホーキングホーン翻訳関係者(稲垣和久、本多峰子)
 - 共立基督教研究所(KCI) <http://www.tci.ac.jp/research/index.html>
 - 聖学院大学・総合研究所(深井智朗、標宣男)
- ・カトリック関係者：柳瀬睦男(『現代物理学と新しい世界像』岩波書店、
『宇宙理解の統一をめざして』南窓社)
- ・仏教関係者：武田龍精(『宗教と科学のあいだ』法蔵館)、泉美治(『科学者の説く
仏教とその哲学』学会出版センター)
「龍谷大学 人間・科学・宗教 オープンリサーチセンター」(仏教生命観
に基づく人間科学の総合研究)
<http://buddhism-orc.ryukoku.ac.jp/japanese/index2.html>
- ・科学史研究との関連から：渡辺正雄(『神と自然』みすず書房)

村上陽一郎 (『科学史からキリスト教をみる』創文社)

- ・科学者サイドから、清水博、清水哲男、泉美治
- ・『岩波講座 宗教と科学』(全10巻、別巻1・2)

(2)世界：Zygon. *Journal of Religion & Science*, Blackwell (<http://zygoncenter.org/>)

イギリス：ニュートン主義以来の自然神学の伝統

トランス、マクグラス

アメリカ：実践的な問題連関 (環境・生命)

Dieter T. Hessel and Rosemary Radford Ruether (eds.)

Christianity and Ecology. Seeing the Well-Being of Earth and Humans,

Harvard University Press 2000

ドイツ：組織神学の問題連関

パネンベルク、モルトマン

- 3 . 現在の状況を歴史的背景から整理する (2 関係史)
問題状況を対話という観点から整理する (3 問題状況)

2 . 科学と宗教との関係史

- 4 . 未分化 分化・内的緊張 分裂 対立 無関係・分離 対話・協力あるいは再統合
17、18、19、 20 世紀 1970 年代

争点：12 世紀ルネサンス、コペルニクス・ガリレオ問題とカルヴァンの聖書解釈学、
ニュートン主義とマートン・テーゼ、進化論と科学者集団の登場

- 5 . 芦名定道 『宗教学のエッセンス - 宗教・呪術・科学 - 』北樹出版 1993年
第二部 科学時代の宗教の意義 - キリスト教思想史の観点から -
芦名他 『科学時代を生きる宗教 - 過去と現在、そして未来へ - 』北樹出版 2004年
芦名定道 『自然神学再考 - 近代世界とキリスト教 - 』晃洋書房 2007年

- 6 . 「宗教、科学、そして哲学の対立の時期は原理的には過ぎ去った。もちろん、より古い思想時代に逆戻りしてまだ生きているような人も存在してはいるが。我々は寛容の時代に生きている。しかしそれは満足のゆくものではない。なぜなら、それはお互いを認め合っはいても、統一することはないからである。.....我々は常に再統合の時期に向かって努力している。.....協力は今日可能な事柄である。これは多くの場所において始められており、これがますます力をまして現実のものとなるという希望を私は表明したい」。(Paul Tillich, *Religion, Science, and Philosophy* 1963, In: J. Mark Thomas (ed.), *Paul Tillich. The Spiritual Situation in Our Technical Society*, Mercer 1988, p.172)

- 7 . 現代の状況あるいは 21 世紀の方向性 (未決定)

- (1) 過去 (19 世紀・対立) への逆行
- (2) 20 世紀的現在 (無関係・分離) の反復
- (3) 新しい関係構築 (対話・協力・再統合) 現代のキリスト教思想の全般的動向

3 . 対話をめぐる問題状況

- 8 . 「宗教と科学」関係論：その可能性と射程

- (1) 基礎論：宗教と科学との関係を問うる理論的根拠 (対話可能性)

形而上学の再構築あるいは自然神学、科学と宗教の接点としての哲学
知の全体性（相互連関）の回復

- ・プロセス神学、ホワイトヘッドに基づく自然主義的有神論
- ・パネンベルク：偶然性の問題、全体性の問題（経験の有意味性の構造）= 科学自体が含意しつつも、顕わには神学的問題として立てられるべき問い
- ・モルトマン：近代精神の分裂状況の克服
ギリシャの存在論的枠組み（コスモス）を聖書的歴史意識・終末論へと転換する

科学的事実論と宗教的事実論との平行関係（論理構造の同一性）

隠喩の指示あるいは真理、理論言語の指示対象

マクグラス、ソスキース、マクフェイグ

(2) 思想史：宗教と科学との関係史（キリスト教思想史 + 科学史）

- ・古代のキリスト教神学の成立過程とギリシャの自然学（無からの創造）
- ・12世紀ルネサンスと修道院
- ・コペルニクス論争とカルヴァンの聖書解釈学（適応理論）
- ・17世紀の近代科学の成立とキリスト教（ニュートン主義）
- ・ダーウィンの進化論の前史と科学者集団成立
- ・古典的な思想家：テイヤール・ド・シャルダン、カール・ハイム、
ホワイトヘッド、トランス、アルベルト・シュヴァイツァーなど
- ・ポストモダンにおける宗教と科学

(3) 実践的倫理的諸問題：宗教と科学が対話・協力できるエートスの形成

環境：エコロジーと宗教

環境危機に対処するための宗教と科学の協力、環境に優しい、他の生命体と共生するエートスの形成（マクフェイグ・感受性、モルトマン・エートス）

生命：生命倫理と宗教

平和・戦争：社会科学（政治学・経済学）とキリスト教

9. 「宗教と科学の諸領域はそれら自身において相互に明確に区別されるとしても、それにもかかわらず、両者の間には、強い交互関係と依存性が存在している」、「宗教のない科学はまっすぐ歩くことができず、科学のない宗教は行き当たりばったりである。」

(Albert Einstein, Science and Religion (I.1939, II.1940), in: Albert Einstein, *Out of my later years*, The Citadel Press 1956, p.26)

10. 問題領域の移行あるいは拡張

物理学・天文学（物質）：-17-世紀

生物学・進化論（生命）：19-20世紀

脳科学・神経科学（心・精神）：20-世紀

キリスト教から、諸宗教へ

11. 東アジアの文脈において

4 . 言果是真

- 12 . 科学と宗教との接点をいかに確保するか
科学者にして信仰者という個人 集団レベルそして理論構築レベル？
個人と集団との関係性
世俗化以降の社会状況で、教会の教義と個人の信仰との関係をどのように構築するのか
- 13 . 研究者のネットワークの構築
「宗教と科学」関係論の全体的な推進
南山大学宗教文化研究所「科学・こころ・宗教」(japanese perspectives on science & spirituality、JPSS) <http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/SHUBUNKEN/projects/projects.htm>
- 14 . キリスト教神学の再構築
時間と空間のバランスの回復（時間偏重、時間 - 空間の対立図式に対して）
終末論の描くヴィジョン（全体性を問う地平としての終末論）
Theodore Hiebert, *The Yahwist's Landscape. Nature and Religion in Early Israel*,
Oxford University Press 1996
- 15 . 倫理：共生、責任性、共感・配慮というものに基づくエートス
cf. 市民の科学（高木仁三郎 『市民科学者として生きる』岩波新書）
- 16 . 「自然科学とキリスト教」から問題設定を一般化できるか。
宗教倫理学会（<http://www.jare.jp/>）での議論
自然科学 科学一般、キリスト教 諸宗教

< 文献 >

- 1 . Alister E. McGrath, *A Scientific Theology. Vol.1: Nature* T&T Clark 2001
Vol.2: Reality Eerdmans 2002、*Vol.3: Theory* T&T Clarck 2003
, *Science & Religion. An Introduction*, Blackwell 1999
(稲垣久和他訳 『科学と宗教』教文館)
- 2 . Sallie McFague, *Models of God. Theological for an Ecological, Nuclear Age*, 1987
The Body of God. An Ecological Theology, 1993
Super, Natural Christians. How we should love nature, 1997
Life Abundant. Rethinking Theology and Economy for a Planet in Peril,
2001 Fortress Press
- 3 . Wolfhart Pannenberg, *Toward a Theology of Nature. Essays on Science and Faith*, (ed. by Ted Peters) Westminster / John Knox Press 1993
(深井智朗、標宣男訳 『自然と神 自然の神学に向けて』教文館)
Natur und Mensch --- und die Zukunft der Schopfung (Beitrage zur Systematischen Theologie Band 2), Vandenhoeck & Ruprecht 2000
- 4 . Jurgen Moltmann, *Wissenschaft und Weisheit. Zum Gespräch zwischen Naturwissenschaft und Theologie*, Chr. Kaiser 2002

5 . 芦名定道

基礎論：

- 「テイリッヒ 生の次元論と科学の問題」、『テイリッヒ研究』創刊号 2000年、
現代キリスト教思想研究会、 pp.1-16
- 「P . テイリッヒと科学論の問題」、『キリスト教文化研究所紀要』
第20号 2002年8月、pp.1-31 東北学院大学キリスト教文化研究所
- 「テイリッヒとアインシュタイン - 人格神をめぐって - 」
『テイリッヒ研究』第5号 2002年9月、pp.1-18
- 「キリスト教思想と形而上学の問題」、『基督教学研究』第24号 2004年、
pp.1-23 京都大学基督教学会
- 「ホワイトヘッドの形而上学とプロセス神学」、『基督教学研究』第25号 2005年、
pp.21-41 京都大学基督教学会

思想史：

- 「キリスト教と近代自然科学 - ニュートンとニュートン主義を中心に - 」
『京都大学文学部研究紀要』第38号 1999年 京都大学文学部、 pp.147-244
- 実践的倫理的諸問題
- 「環境問題とキリスト教思想」、『日本の神学』第36号 1997年、日本基督教学会
pp.101 ~ 108
- 「テイリッヒとエコロジーの神学」、『テイリッヒ研究』第4号 2002年、pp.1-16
- 「環境と共生 - キリスト教の視点から - 」、『比較思想研究』第29号 2003年
比較思想学会、 pp.28-35
- 「キリスト教と進化論」、『金城学院大学キリスト教文化研究所編『宗教・科学・い
のち 新しい対話の道を求めて』 新教出版社 2006年7月 pp.102-123
- +
- 『自然神学再考 - 近代世界とキリスト教 - 』晃洋書房 2007年